

男女共同参画通信

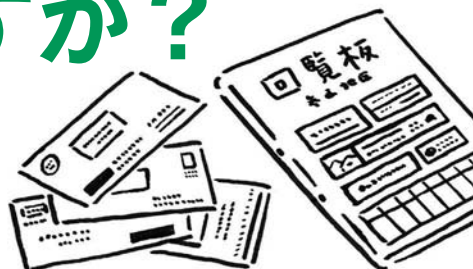
GENDER EQUALITY NEWSLETTER BY WINGS KYOTO

March 2019
@KYOTO CITY

vol.47



「名前のない家事」って、知っていますか？



参考資料 紹介



フルオートでしか洗濯できない人の
男の家事
五藤 隆介/著
秀和システム



目指せ！夫婦ツオベ育児
ふたりで親になるわけ
水谷 さるこ/著 新潮社



家事シェア白書
夫婦の家事を家族にする
家事シェアのススメ
NPO 法人 tadaima!



家事労働ハラスメント
生きづらさの根にあるもの
竹信 二恵子/著 岩波書店



今日からはじめる男の家事
R60の教科書
阿部 純子/監修 講談社



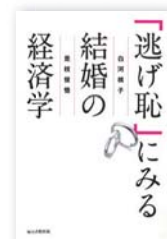
結婚と家族のこれから
共働き社会の限界
岡井 淳也/著 光文社



血洗いの、どっち？
目指せ、家庭内男女平等！
山内 マリコ/著 マガジンハウス



主夫になってはじめて
わかった主婦のこと
中村 シュフ/著 猿江商會



「逃げ恥」にみる
結婚の経済学
白河 桃子・是枝 俊悟/著
毎日新聞出版



逃げるは恥だが役に立つ
(コミック) 全9巻
海野 つなみ/著 講談社



13歳からの家事のきほん46
アントラム 柊木利美/著
海竜社

参考資料の 閲覧・貸出

京都市男女共同参画センター ウィングス京都 図書情報室

(開室時間) 月～土 10:30～20:30 日・祝日 10:30～17:00
(休館日) 水・年末年始・特別整理期間 (TEL) 075-212-0606

[発行]

京都市文化市民局共同参画社会推進部男女共同参画推進課
〒604-8186 京都市中京区烏丸御池東南角
アーバネックス御池ビル西館4階
TEL: 075-222-3091 FAX: 075-222-3223
<http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/soshiki/6-1-2-0-0.html>

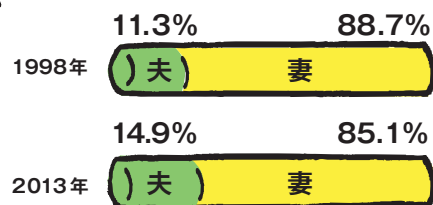
[企画・編集]

公益財団法人 京都市男女共同参画推進協会
〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下る御射山町 262
TEL: 075-212-7490 FAX: 075-212-7460
<http://www.wings-kyoto.jp/>





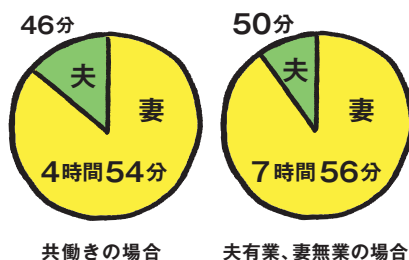
家事分担割合



このグラフは、妻と夫がそれぞれ担当する家事の量全体を100としたとき、それぞれが分担する割合について、平均値を見たものです。妻の分担する割合は依然として圧倒的に多く、85%を超えています。

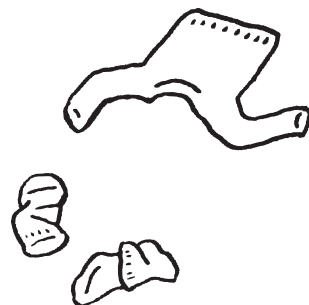
1998年から2013年の調査にかけて、妻の分担する割合が低下し、夫の分担する割合は上昇しましたが、その変化はわずかなものです。

〔国立社会保障・人口問題研究所 2013年社会保障・人口問題基本調査 第5回全国家庭動向調査結果の概要〕より作成



このグラフは、6歳未満の子どもをもつ世帯において、1日のうち家事時間が夫婦それぞれ、どのくらいを占めるかを円グラフで表示したものです。夫婦間で、夫有業、妻無業世帯では9倍以上、共働き世帯でも、6倍以上の時間差があることが分かります。

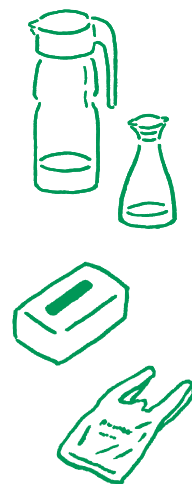
〔総務省 平成28年 社会生活基本調査—生活時間に関する結果—〕より作成



家事分担割合、家事にかかる時間の両方で、妻と夫の分担に大きな差があることが分かります。



今回はこの「名前のない家事」にスポットを当て、家庭での「家事」について考えてみました。私たちの日々の生活の基盤となる「家事」について、あらためて考えてみませんか。



「名前のない家事」

例えば、「洗濯」の前に、丸まったままの衣服をひっくり返す。「料理」の前に、食事の献立を考える—これらはなくてはならない作業なのに、「名前がない」ために見えにくく、軽く見られがちです。

些細だけれど、実際には数えきれないほどたくさんある「名前のない家事」。

「名前のない家事」という言葉、聞いたことがありますか？料理、お風呂掃除、洗濯、ゴミ捨てといった「名前のある家事」ではなく、日常的に行われているにも関わらず、「家事」だと認識されていないようなもの。

「名前のない家事」って何？



INDEX

- P1 「名前のない家事」って何？
- P2 家事分担割合と家事時間
- P3 家事に対する「意識」の違いとは？
- P4 「名前のない家事」リスト
- P5 実践女子大学准教授 山根純佳さん インタビュー
- 裏表紙 参考資料紹介



玄関で脱ぎっぱなしの靴の片づけ・
下駄箱へ入れる / 靴を揃える

担当



裏返しに脱いだ衣類・丸まったまま
の靴下をひっくり返す

担当



服の脱ぎっぱなしを片づける・
洗濯カゴへ入れる

担当



トイレットペーパーの補充・交換

担当



飲み終わったコップやペットボトル・
空き缶を片づける / 洗う

担当



シャンプー・洗剤・ハンドソープ
などの補充・詰め替え

担当



資源ゴミの分別・仕分け

担当



子どもが散らかしたおもちゃなど
の片づけ

担当



お風呂や洗面台の排水溝の掃除

担当



食事の献立を考える

担当

「名前のない家事」

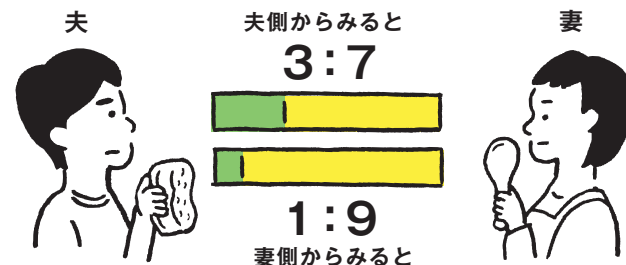
リスト

本冊子では、「名前のない家事」が具体的にどのようなものかを示しながら、家族の家事分担を見直せるよう、「担当欄」を追加してみました。家族で話し合い、子どもも取り組めるよう、家族の様子を見ながら家事の分担を始めてみましょう。我が家だけの「名前のない家事」リストも作ってみてはどですか？



大和ハウス工業株式会社「名もなき家事」TOP10 ランキングより作成

夫：妻の家事参加率は？



共働き夫婦の家事参加に対する意識について、夫と妻にそれぞれの家事参加率を聞いたところ、妻は「夫 1 割：妻 9 割」が最も多く、夫は「夫 3 割：妻 7 割」が最も多い結果となり、夫婦間で大きな意識の差がありました。

「大和ハウス工業株式会社 共働き夫婦の「家事」に関する意識調査」（2017 年）より作成

家事への参加意識と実際の家事の分担比率

81.7%



夫も
家事参加
すべき
だと思う

85.1%



2018 年に実施した調査によると、「夫も家事を分担する方がよいと思う」との質問に、「そう思う」と答えた夫は 81.7%、妻は 85.1%と過去 30 年の調査で最高の値となっています。

一方、夫婦の家事参加の実態をみると、「『食事のしたく』をすることがよくある」、「『洗濯』をすることがよくある」、「『部屋のそうじ』をすることがよくある」の質問に対し、「よくある」と答えた割合は、ほぼ「夫：妻＝1：9」となっており、実態はまだ妻に偏りがあることが分かります。



1:9



「博報堂生活総合研究所『家族 30 年変化』調査結果」（2018 年）より作成

家事に対する「意識」の違いとは？
理想と現実は大大きく違う？

夫と妻の家事に関する意識調査で、家事参加への「意識」や家事参加の実態で、夫婦間には大きなギャップがあることが分かります。あなたは、家事について家族で会話をしたことがありますか？



実践女子大学准教授・ジェンダー論

山根純佳さん

家事における性別分業をジェンダーの視点から分析されている山根先生にお話を伺いました。

Q1

ここまでのグラフや調査を見ると、夫婦間での実際の家事分担割合や、家事に対する理想と現実に大きなギャップがあります。それはなぜなのでしょう。

それは例えば、次のようなジェンダーに関わる心理的・社会的プレッシャーがあるのではと考えています。

- 男性は家事をしたくても仕事が忙しく、現実には時間がない状況にある
- そもそも男性には、自分が家事の担い手の一人であるという意識がない（もしくは弱い）
- 女性がこれまでのやり方を変えることへの抵抗感、「手伝って」と依頼、お願いすることに対しての心理的負担が大きい
- 男性のこれまでの家事の経験不足（大人になるまで、男の子は家でも家事の手伝いをさせないことからの連鎖からきている）
- 女性が男性に任せるより自分がやった方が早くすむと考えている
- 「できる方がやる」といった一見、平等のような言葉が、不平等を生んでいる。家事のために時間を作っていることを意識していない
- 女性が、家事を男性にやらせるのは「申し訳ない」・「女性として能力が低い」と感じてしまう

Q2

「名前のある家事」と「名前のない家事」との、一番の違いは何だと思いますか。

「名前のない家事」は、主に家族や身近な人の生活が、どうやって問題なくスムーズにいくかを思索し、統制するという責任、その継続的な調整活動のくり返しというプロセスです。それが、「見えない」、「気づかれない」からこそ、担い手の負担や責任が共有されないのであると思います。そしてそれはまた、家族一人一人に合わせた調整が必要なので、複雑かつ細かな作業、思考、時間配分など「見えないけれど」大変な仕事なのです。

Q3

「名前のない家事」という言葉に表されるように、なぜ今、家事が意識されるようになったのでしょうか。

共働きが増えているにもかかわらず、前述のグラフや調査のように、家事の分担がうまくいっていない、不平等があると感じている人が多いことで、「家事」とは何かが改めて捉え直されるようになったのではないのでしょうか。また介護の需要や人手不足などの深刻さが社会問題化する中で、身近な家事の時間や役割分担について、人々の関心が高まってきた、同時にそれに対する解決策（誰が何をどこまで担うのか）を模索する動きも広く共有されるようになったのではないのでしょうか。

Q4

「名前のない家事」にジェンダーはどのように関わっていますか？

例えば「女性の方が細やかな気遣いに長けている」と言われることが多く、家事を担うのは女性、といった性別分業の再生産の考え方が、いまだになぜ続いているのでしょうか。

「いま、何が必要か」「とりあえずどうすればいいか」といったことは、やり方がマニュアル化されているわけではありません。そのマニュアル化できない調整や判断は、これまで家事を担ってきた（担うよう求められてきた）、主に女性（例えばお母さん）が試行錯誤して編み出して作ったものです。その「調整済み、判断済み」のところで、「名前のある家事」をしたところで、家事の時間や負担の不平等はなくなりません。

「名前のない家事」は今日でも、女性がするべきことという「前提」が共有され続けています。そして、そういった家事という労働は、いわゆる「アンペイドワーク」に含まれるのではないかと考えています。そう考えていけば、もう20年以上前から問題とされてきた「アンペイドワーク」という問題が今こそ、広く知られ、様々な働き方をする人が性別に関わらず、家事を自分事として見直すいい機会なのかもしれません。

Q5

この先の「家事」とはどのようなものと捉えていけばいいのでしょうか。家事を見直すことで、何が変わっていくと思われますか。

あらゆる人が、この「見えない家事」や「アンペイドワーク」の構造に気づき、共有することで、性別によって分業されていた分担意識を変え、新たな労働観を持てば良いと思います。例えば、男性は職場では、細かい仕事の段取りをつけたり、1週間先、1カ月先の予定などルーティンにしている業務などがあると思います。ある会議のために資料を集めたり、新しく学ぶこともあるはずです。家事もその仕事の進め方と違いははずです。家事を家の中の仕事のひとつとしてみれば、男性には家事は不向きである、といった「言い訳」は通用しないのではないのでしょうか。

男性が「稼ぎ手役割からおりる、おりない」ではなく、また女性が、家事が不得手であることを自己否定に捉える必要もないと思います。性別にかかわらず、家族全体、例えば子どもたちの世代にも実際の家事の作業を通して、自分たちの身近な生活の一部として、家事を身につけて、自分の生活を快適に成り立たせる術を身につけて欲しいと思います。

著書紹介



なぜ女性はケア労働をするのか
性別分業の再生産を超えて
山根純佳 著
勁草書房 2010年

Profile 山根 純佳 (やまね すみか)

1976年生まれ。早稲田大学教育学部社会科学専修、東京大学人文社会科学研究所修士課程・博士課程修了し、博士（社会学）取得。2010年山形大学人文学部講師、同准教授を経て、2015年から実践女子大学人間社会学部准教授。著書に「産む産まないは女の権利か フェミニズムとリベラリズム」（勁草書房、2004年）、「正義・ジェンダー・家族」（共訳、岩波書店、2013年）など多数。